新春のご挨拶

「DX Enabler™」として飛躍する１年に

NTTコミュニケーションズ株式会社　代表取締役社長　庄司 哲也

明けましておめでとうございます。

日頃よりご愛顧、ご支援いただいておりますお客さまやパートナーの皆さま、関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

NTTコミュニケーションズグループは、本年の７月１日に設立20周年を迎えます。この20年間に、通信やICTの世界では大幅な技術革新がありました。この技術革新を背景に、ビジネスにおいては、グローバル企業が国境を越えて市場を席巻したり、スタートアップ企業のイノベーションが既存のビジネスを根底から覆したりするなど、従来の常識を一変するような大きなうねりや変化が生まれています。

そのような中で企業に求められるのは、変化への適応だけでなく、自ら変化を生んでいくデジタル・トランスフォーメーション（DX）の取り組みです。

振り返れば、創業当時、1999年のキャッチコピーは“CHANGE COMMUNICATIONS.”でした。平成も最後となる節目の年、NTTコミュニケーションズグループは、デジタルで世界を変えていくという決意はそのままに、DXによる“Re-born（新生）”を推進する「DX Enabler™」として、新たなスタートを切りたいと考えています。

私どもはまず、お客さまのDXを実現するため、「One NTT」の総合力を発揮して邁進します。本年は、DX推進のための信頼される強力な基盤として「データ流通プラットフォーム」の提供を開始します。このプラットフォームは、「マルチオーケストレーター」によって、IoTによるデータ収集からAIによるデータ分析に至るまでを包括的に提供する機能を持ち、お客さまの多様なニーズに応えることができます。

「マルチオーケストレーター」は、従来提供してきた企業向けクラウドサービスの「Enterprise Cloud」や「SDx＋M」ソリューションなど、Software Definedの柔軟なアーキテクチャーのアセットやノウハウを活用したもので、仮想化されたさまざまな機能を、お客さまのICT環境の中で最適な場所へ、自動的に配置することを可能にします。これにより、NTTグループの「Cognitive Foundation®」※1のコンセプトにもとづき、私どもならではの柔軟で信頼性の高いプラットフォームを実現していきます。

また、昨年相次いだ自然災害や、進化するセキュリティ上の脅威、あるいは個人情報の流出・流用事件などを鑑みても、データ利活用は安心・安全に実現できることが肝要です。「データ流通プラットフォーム」では、私どもがデータを囲い込むことはなく、お客さまが自社の所有するデータへ自在にアクセスしてビジネスに活用できる透明性の高い環境を、ニーズに応じた管理方法やセキュリティで提供します。私どもはこのような形で、新しいデータ利活用の在り方を提案し、デジタル時代の倫理とプライバシーを確立していきたいと考えています。

さらに私どもは、グループを通じた“Re-born”により自らのDXも推進します。本年は、グローバル事業の統合と、それに伴う国内事業の整理によって、海外・国内双方のマーケットにおける競争力を強化します。そしてNTTグループの強みを結集し、「One NTT」として、デジタル領域でのケイパビリティを拡大します。

この“Re-born”の象徴となるのが、2019年１月４日からの本社機能の移転です。日比谷から移る新しいオフィス「大手町プレイス」には、SDxやIoTなどのテクノロジーを盛り込んだだけでなく、「共創」を促進する場をふんだんに設けています。この拠点を、ア

イデアや変革が生まれる起点にしていきたいと思います。

本年は日本においてラグビーワールドカップが開催され、さらに翌年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が控えているという大事な一年になります。これらの世界的イベントへの成功にも大きな貢献ができるよう尽力してまいります。

最後に本年が素晴らしい年になりますよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

※１：クラウドやNWサービスに加え、ユーザのICTリソースを含めた構築・設定および管理・運用を、一元的に実施できる仕組み。マルチドメイン、マルチレイヤ、マルチサービス／ベンダ環境における迅速なICTリソースの配備とICTリソース構成の最適化を実現できます。

※２：NTTコミュニケーションズは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のゴールドパートナー（通信サービス）です